

行政視察報告書

平成26年12月16日

委員会名		建設経済常任委員会
参加者	委員長	加藤 仁 司
	副委員長	神 永 四 郎
	委員	野 坂 稔 大 川 裕 今 村 洋 一 横 田 八 郎 井 原 義 雄 関 野 隆 司
期 間		平成26年10月6日(月)～8日(水)
視察地、 調査項目 及び概要	新潟県 長岡市	<p>1 長岡市担い手育成総合支援協議会について</p> <p>長岡市の農業は、水稻を基幹とする土地利用型農業が中心となっている一方、なす等の野菜の生産により多角化を推進しているところであるが、同市の農業就業者数は年々減少しており、高齢化対策や後継者確保が喫緊の課題となっている。</p> <p>このような状況下、新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定(平成17年3月閣議決定)に伴い、平成17年6月に長岡市担い手育成総合支援協議会が発足しており、効率的営農体制づくりに向けた地域ぐるみ農業の推進、農業経営改善支援活動を通じた多様な担い手の育成・確保、その他長岡市の農業・農村活性化の推進等を目的とした同協議会の活動状況等について、行政視察を実施した。</p> <p>この協議会は、長岡市、長岡市農業委員会、同市内の5つの農業協同組合と7つの土地改良区、中越農業共済組合、認定農業者会及び農村女性グループで構成されており、「ワンフロア会議」において構成組織間の情報共有を図るとともに、事業計画、予算及び運営方法等について協議している。また、このワンフロア会議で検討を行った事業計画や予算については、幹事会に諮り、協議を行った上で総会に上程している。</p> <p>主な活動内容としては、認定農業者等の担い手の経営発展のための経理研修会・経営研修会・税務会計等研修会の開催、農業経営改善計画作成支援、ホームページの管理運営や、担い手情報誌「ながおか担い手通信」の発行等が挙げられる。</p> <p>このような活動を継続することにより、新規就農者数は、平成24年度の9人から平成25年度は19人となり、認定農業者の法人数は平成24年度の87から平成25年度は121となるなど、一定の成果を挙げている。</p> <p>一方で、課題としては、同協議会内における構成組織のさらなる相互連携や、依然として存在する農業従事者の高齢化に伴う担い手不足の解消が挙げられる。</p>
	新潟県 上越市	<p>1 メイド・イン上越推進事業について</p> <p>上越市では、平成26年度末に予定されている北陸新幹線開業の契機をとらえ、工業製品や特産品の研究開発と市場開拓及び販路拡大をトータルコーディネートすることで、内発型の市内経済の活性化を目的とし、平成25年度よりメイド・イン上越推進事業を開始していることから、同事業の概要について行政視察を実施した。</p> <p>本事業では、市内の中小企業等が独自の技術、発想または地場の産品</p>

を活用するなどして、開発・製造した優れた製品・商品を「メイド・イン上越」として認証し、ロゴマークを作成するとともに、販路開拓・販売支援を行っており、事業開始年度である平成25年度は、工業製品では4事業者の4製品、特産品では5事業者の9製品を認証し、平成26年10月時点では、特産品でさらに2事業者の12製品を認証している。

事業の成果としては、事業者の意識醸成、新商品の開発促進、認証品の知名度アップと販路拡大、認証品及び事業者の信頼性向上が挙げられる一方、課題としては、特産品における認証品の偏り解消、既に地域で受け入れられている既存商品にも力を入れていくことが挙げられる。

なお、平成26年度下半期より、「メイド・イン上越」認証制度を改正し、新たに認証枠を3つ設けた。1つ目は、「新商品・改良商品枠」であり、新たに開発した商品又は製造方法、原材料、内容量等について新たに改良を加えた商品を対象としている。2つ目は、「老舗の味・技枠」であり、新たな市場の開拓を目指す老舗の売れ筋商品を対象としている。3つ目は、「既存商品枠」であり、前述の2種以外の売れ筋商品を対象としている。また、新たな登録枠として「地域の継承品」を設け、上越ならではの特色等を有する産品群を指定・登録し、該当する商品を広くアピールすることとしている。

この新たな3つの認証枠と1つの登録枠を設けることにより、「メイド・イン上越」の品揃えに厚みと幅を持たせ、総合的なブランドの力でさらなるPRと販路拡大を図ることとしている。

1 クルン高岡地下街について

JR高岡駅前地下街は、高岡ステーションビルの地下街として、昭和44年に営業を開始した。その後、高岡駅周辺整備事業の一環として地下街を含めた同ビルのリニューアル工事により、平成26年3月に民間の商業スペースが先行オープンし、さらに、公共スペースの工事完了により、平成26年6月にフルオープンとなったことから、その施設の概要等について行政視察を実施した。

同ビルの愛称「クルン高岡」にちなんで、「クルン高岡地下街」と呼ばれているこの施設は、公共スペース255.63㎡、民間スペース624.45㎡、地下道1,777.61㎡、その他(トイレ、機械室等)420.05㎡で構成され、合計3,077.74㎡となっている。

公共スペースでは、中心市街地の賑わいの創出及び地域交流の場として活用する事業拠点となる、3つの施設が設置されている。1つ目は、「ギャラリースペース」であり、県内の商品及び全国の工芸作品等の展示販売を行っている。2つ目は「勉強カフェ」であり、社会人等の資格取得等を応援する勉強の場となっている。3つ目は「マルチルーム」であり、囲碁教室等、カルチャー教室を開催している。

民間スペースでは、10店舗が営業しており、また、音響、照明、液晶ディスプレイを完備した「TAKAOKA B1 ステージ」がある。

また、「アートの路(みち)」では、高岡御車山のモザイクタイルパネル等により、高岡市の歴史文化が息づく空間を演出している。

なお、「街の滞在魅力向上」、「市民交流」及び「情報の創造・発信」を目的にクルン高岡地下街賑わい創出事業を展開しており、「TAKAOKA B1 ステージ」での各種イベント開催や、さまざまな地域情報を発信する「デジタルサイネージ(42インチ液晶ディスプレイ21台)」により、イベント情報、公共情報、観光施設の案内情報を提供している。

富山県
高岡市